

すくねづか 宿禰塚古墳を相生市文化財に指定

問生涯学習課文化財係 ☎23 2961

- 名称 宿禰塚古墳 附 採集須恵器す え き（脚台付有蓋壺きやくだいつきゆがいつぼ）1点
- 指定日 令和5年1月31日
- 種別 史跡名勝天然記念物
- 所在地 相生市那波野字今池ノ下

宿禰塚古墳は、相生カントリー倶楽部内に所在する墳長約42 m、
径約36 mの造出付円墳つくりだしつき（円形の墳丘の裾部に方形の出っ張が付く）
です。2段に築かれ、周囲に幅約3 mの溝がめぐらされています。

保存状態がよく、過去に埴輪はにわや須恵器が採集されています。とりわけ、完形となる須恵器の脚台付有蓋壺（付属物として古墳とともに文化財に指定）は優品で、これまで県内外の展示施設などで紹介されてきました。埋葬施設は不明ですが、5世紀第2四半期ごろに築造されたと推定されます。葬られたのは那波野地区を基盤とした渡来人の有力者ないし渡来人集団を率いた首長しゅちよう（豪族）と考えられています。

★宿禰塚古墳はゴルフ場内に所在するため、安全確保を優先して普段立ち入ることはできません。公開については、教育委員会が許可をとって歴史民俗資料館主催の「史跡めぐり」の中で実施するようにしています。

★採集遺物の脚台付有蓋壺ほか須恵器と埴輪は、資料館2階で展示しています。



図1 宿禰塚古墳墳丘（南から撮影）



図2 宿禰塚古墳墳丘北側の周溝（西から撮影）